

保育所サービス評価結果記入様式

評価実施日（ 令和元年12月11日 ）

施設名（ 甲南のぞみ保育園 ）

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
共通評価基準			
I. 福祉サービスの基本方針と組織			
I-1 理念・基本方針			
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。			
(1) I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている	a b c	法人の基本理念は明文化されており、職員へは園内研修を通して周知されている。保護者等には「甲南のぞみ保育園のしおり（重要事項説明書）」に記載し、入園進級式において説明している。また、保護者会総会や日々の保育の中で説明する機会を設けている。ホームページや園だよりでも周知している。	
I-2 経営状況の把握			
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。			
(2) I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a b c	法人理事・監事・園長出席による「法人役員協議会」が毎月開催され、その中で園の経営状況を報告し経営課題の検討を行っている。また、危機管理や職場改善の観点から、具体的な施設改修等を計画、実施している。	
(3) I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a b c		
I-3 事業計画の策定			
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
(4) I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a b c	園の中・長期の事業計画や収支計画は策定されていない。単年度の事業計画策定は、職員の意見も取り入れながら保育理念、運営指針、具体的各種計画と分かり易く記載されている。	平成30年度に「保育所保育指針」が改訂され、これからの少子高齢化社会、情報化社会、自然災害の増加、格差社会等様々な課題を抱えた社会になる中で、園の中・長期的ビジョンや計画は必置の条件となります。中・長期の事業計画や収支計画の策定を望みます。
(5) I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a b c		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。			
(6) I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a b c	年度初めに全職員で事業計画の共有の場を設け、毎月開催の「保育会議」や「職員会議」、朝礼・終礼、職員との面談時などに具体的な内容について周知している。また、各種会議において現状把握や評価を行い、組織的な見直しを行っている。	
(7) I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a b c	保護者には、「甲南のぞみ保育園のしおり（重要事項の説明書）」やチラシ、ホームページなどの広報媒体や、保護者会役員会において事業計画や保育指導計画等を周知している。	事業計画や保育計画の内容の理解を促す一定の取り組みを行っているが、更に様々な機会や媒体を用いて、保護者や地域に向け理解が深まるように説明することが必要と思われる。

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
<p>I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組</p> <p>I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。</p> <p>(8) 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。</p>	<p>a b c</p>	<p>園独自のサービス評価委員会を持ち、毎年サービスの自己評価を行っている。結果については、法人本部への報告、職員会議での振り返り・分析を行い、改善計画書を作成し次年度の事業計画に活かしている。また、毎月の職員会議や保育会議の中で課題を共有、改善に取り組んでいる。具体例として年3回の「あんぜんの日」を設け、事故防止・安全のため地域を回って事故予防の啓発している。散歩マップに写真を撮りマップ化するなどの取り組みを行っている。</p>	
<p>(9) I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。</p>	<p>a b c</p>		
<p>II 組織の運営管理</p> <p>II-1 管理者の責任とリーダーシップ</p> <p>II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。</p> <p>(10) II-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。</p>	<p>a b c</p>	<p>園長は、49名の全職員の職務分担表や役割分担表を作成し、自らの役割と職員個々の役割を明確に示している。園長として法人と連携し「新保育所保育指針」に則った就業規則や事業計画の改定に取り組んでいる。年に1回、職員一人ひとりと面談を行い役割と責任の意識付けをしている。</p>	
<p>(11) II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。</p>	<p>a b c</p>	<p>全国保育士会の「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を用いて、年2回、職員のセルフチェックを行っている。労働基準法の遵守にも力を入れている。</p>	
<p>II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。</p> <p>(12) II-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。</p>	<p>a b c</p>	<p>園長は甲南のぞみ保育園に就任して4年が経ち、毎年着実に良いチームワークづくりと働きやすい職場づくりの取り組みを積み重ねている。8月には休憩室の新設や職員が気持ちよく働けるように「ありがとうカード」「さすがカード」を導入するなど、業務の改善に努めている。</p>	<p>自己評価にも記載されているように、職員の意欲を高めるため、業務の「具体化」「可視化」を行い意識の統一を図ることをお奨めします。</p>
<p>(13) II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。</p>	<p>a b c</p>		

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
<p>Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成</p> <p>Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。</p> <p>(14) Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p>	<p>(a) b c</p>	<p>事業計画にも人材確保・育成について明記している。休憩室の新設など職員の働きやすい職場環境づくりにハード・ソフト両面で取り組んでいる。有給休暇を取得できるよう、職場の雰囲気づくりや職員一人ひとりの就業状況の把握や意向への配慮がなされている。時間外勤務削減のため記録の時間を減らしたり、一週間に一度「早く帰りましょう」の声掛けを行うなど工夫を積み重ねている。</p>	
<p>(15) Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。</p>	<p>(a) b c</p>		
<p>Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。</p> <p>(16) Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p>	<p>(a) b c</p>		
<p>Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</p> <p>(17) Ⅱ-2-(3)-① 職員一人一人の育成に向けた取組を行っている。</p>	<p>a (b) c</p>	<p>詳細な研修計画が策定されている。園内研修として「全職員研修」「経験年数・職種別研修」「日常業務内での個別指導」、新人定着のための「新任研修」など、更に「出張研修」や「キャリアアップ研修」など、職員は経験に応じた個別研修に参加している。園長は研修の機会を平等に取るよう配慮している。</p>	<p>正規職員の人数が減ったことで、逆に正規職員の負担が大きくなったと思われる。福祉サービスにおいては人材難の状況ではあるが、現在在職する職員一人ひとりが学びたい内容や意向を丁寧に把握し、育成に向けた研修や指導に取り組むことを期待します。</p>
<p>(18) Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。</p>	<p>(a) b c</p>		
<p>(19) Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人一人の教育・研修の機会が確保されている。</p>	<p>(a) b c</p>		
<p>Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。</p> <p>(20) Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。</p>	<p>(a) b c</p>	<p>園として実習生の受け入れ計画があり、その計画に沿って受け入れている。実習前には「保育実習生の受け入れについて」のマニュアルに沿って保育実習オリエンテーションを行っている。近隣の中学校の職場体験や高等学校の保育体験実習、保育士養成学校の実習等、実習生を積極的に受け入れている。</p>	<p>実習生等の受け入れに際して、園の独自性や強みを活かしたアピールを行うことで、実習生の増加や職員確保につながるとと思われる。</p>

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
<p>Ⅱ-3 運営の透明性の確保 Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。</p> <p>(21) Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</p>	<p>○ a b c</p>	<p>法人のホームページを通じて、園の事業計画や財務等に関する情報を公開している。職員に向けては、毎月の職員会議において運営状況を伝えている。定期的に公認会計士の監査を実施し、毎月法人の役員協議会において運営状況を報告している。</p>	
<p>(22) Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。</p>	<p>○ a b c</p>		
<p>Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献 Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。</p> <p>(23) Ⅱ-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p>	<p>○ a b c</p>	<p>未就園児親子が集う「あそびのひろば・びよびよらんど」「あそびのひろば・やんちゃくらぶ」を年間10回（延参加人数153名）実施している。5歳児による和太鼓の演奏会を地域の文化祭で行い交流を継続している。また、近隣の希望ヶ丘小学校との交流も続けている。保護者会によるボランティア活動（愛園作業等）を受け入れ連携を図っている。</p>	<p>個人情報の取扱いについて誓約書を交わし、事前説明等行っているが、受入れマニュアルを整備することで、リスク管理にもつながると思われる。</p>
<p>(24) Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p>	<p>a ○ b c</p>		
<p>Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。</p> <p>(25) Ⅱ-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p>	<p>○ a b c</p>	<p>園の近隣には、多くの社会資源がある。保健センター、消防署、警察、社会福祉協議会、JA、民生委員児童委員、希望ヶ丘自治会、希望ヶ丘本町自治会など、関係機関と密な連携に努めている。</p>	
<p>Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。</p> <p>(26) Ⅱ-4-(3)-① 保育所が有する機能を地域に還元している。</p>	<p>○ a b c</p>		
<p>(27) Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。</p>	<p>○ a b c</p>	<p>園庭開放や一時預かり保育事業（月14日以内）、地域活動事業「あそびのひろば」、高齢部交流等幅広い地域貢献事業に取り組んでいる。「あそびのひろば」では、離乳食や幼児食の試食会を開き好評を得ている。地域の高齢部交流の際には、地元産の「黒影米のご飯」や素材の味わいを活かした献立で会食を行っている。</p>	

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
<p>Ⅲ 適切な福祉サービスの実施</p> <p>Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス</p> <p>Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。</p> <p>(28) Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。</p>	<p>○ a b c</p>	<p>年1回、保護者アンケートを実施し、結果を分析・検討することで、職員の保育への取り組みや保護者等への対応に活かされている。年間で複数回の人権研修や虐待予防研修等へ職員を派遣している。プライバシー保護については、「全国保育士会倫理綱領」に則り、朝・夕のミーティングや職員会議において周知している。また、「SNSをめぐるトラブルの予防について」と言うマニュアルに基づきSNS利用に関する研修を行っている。</p>	
<p>(29) Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。</p>	<p>○ a b c</p>		
<p>Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。</p> <p>(30) Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。</p>	<p>○ a b c</p>	<p>入園申込までに園の見学を受け入れている。園見学の際は、一人ずつ説明を行い丁寧に見学に応じている。保護者に対しては、契約時の重要事項説明書や保育計画の変更時に説明し同意を得ている。10月の保育無償化に際しては、保護者の理解を得るため、その内容について5回にわたり説明会を開催した。年1~2回開催される「保幼小連絡会」に参加し、支援が必要な子どもへは入学前の面談を行っている。災害等の緊急時の情報伝達手段として、「連絡一斉メール配信システム」を導入し、伝達訓練も行っている。</p>	
<p>(31) Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。</p>	<p>○ a b c</p>		
<p>(32) Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。</p>	<p>○ a b c</p>		

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
<p>Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。</p> <p>(33) Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。</p>	a <input checked="" type="radio"/> b c	<p>年1回、保護者向けアンケートを実施している。また、送迎時に保護者からの意見や相談を直接受けた際は職員間で共有している。</p> <p>「甲南のぞみ保育園のしおり（重要事項説明書）」に苦情相談窓口を明記し、入園、進級時には確認できるよう記載している。年末に個別懇談会を行い保護者からの意見を聞く機会を設けている。送迎時には、どの保護者も直接クラス担任に相談しやすい雰囲気を作るよう心掛けている。クラス担任が聞き取った苦情や意見等は、苦情内容を園長・主任保育士・担任保育士で検討し、迅速な対応に努めている。</p>	<p>重要事項説明書にも記載されている「意見箱」が実際には置かれていなかった。幅広い意見等を収集するため「意見箱」の設置を望む。</p>
<p>Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。</p> <p>(34) Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。</p>	a <input checked="" type="radio"/> b c		
<p>(35) Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。</p>	a <input checked="" type="radio"/> b c		
<p>(36) Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。</p>	<input checked="" type="radio"/> a b c		
<p>Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。</p> <p>(37) Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。</p>	a <input checked="" type="radio"/> b c	<p>年間200件以上のヒヤリハット報告がある。内容を分析し、終礼時に他の職員と情報共有を行い再発防止に努めている。現状、夕方の職員が入れ替わる時間帯でヒヤリハットが多い。保護者へはお迎え時に報告している。感染症予防については、看護師が対応マニュアルに基づいて、玄関入り口のボードですぐに告知している。月1回の避難訓練では、様々な危険や災害を想定して年間計画を作成しており、事前予告なしの訓練も実施している。緊急時の対応について地域との連携も進めている。</p>	<p>子どもの生きる力を育むことを大切にする中で、小さなリスクやケガも大切な経験となる。リスクマネジメントを行いながら、ケガの対応について、更には園の方針について、保護者や地域に信頼が得られるように様々な手段、機会を通して発信することが必要です。</p>
<p>(38) Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。</p>	<input checked="" type="radio"/> a b c		
<p>(39) Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。</p>	<input checked="" type="radio"/> a b c		

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
<p>Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保</p> <p>Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。</p> <p>(40) Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。</p>	<p>(a) b c</p>	<p>年間事業計画の中に、「保育の取り組み」として実施方法が明確に挙げられている。家庭的な生活を送ることで、24時間の生活リズムを整える。逞しい子どもになるための食べることを大切にす。元気な体づくりのための運動遊び（おはようタイム・元気タイム・和太鼓など）を保育に取り込まれている。布オムツの推奨など、具体的な方法が文書化されている。実施方法の見直しはリーダー会議で定期的に検討している。</p>	
<p>(41) Ⅲ-2-(2)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p>	<p>(a) b c</p>		
<p>Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。</p> <p>(42) Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。</p>	<p>(a) b c</p>	<p>クラスごとに月案、週案、保育日誌が記録されており、実施状況や子どもの様子を確認しながら、より良い計画となるよう随時変更等を行っている。月案には「子どもの姿」「ねらい」「基礎的事項」「食育」「環境構成」「予想される子どもの活動・姿」「振り返り」等、アセスメント結果が詳細に書かれており、日々の保育に基づいた指導計画が立てられている。毎日の朝礼・終礼の時や職員会議等でも話し合いを行い、個別指導計画も評価・見直しが行われている。</p>	
<p>(43) Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。</p>	<p>(a) b c</p>		
<p>Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。</p> <p>(44) Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。</p>	<p>(a) b c</p>		
<p>(45) Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。</p>	<p>(a) b c</p>	<p>保育指導計画には、発達過程での保育記録が克明に記録されており、年度途中で評価・見直しを行っている。記録の管理体制については「文書管理規程」に基づきファイルの管理場所を定め、園外へ持ち出し禁止を徹底している。</p>	

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
内容評価基準			
IV-1 保育内容			
IV-1-(1) 全体的な計画（保育課程）の編成			
(46) IV-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画（保育課程）を編成している。	a b c	法人理念・新保育所保育指針に基づき、年間を通じた職員の共通理解を図り、指導計画や園内研修に活かしている。園児一人ひとりの姿や家庭状況、成長過程に応じた豊かな保育・教育に取り組んでいる。保育基本目標の一つである「明るく元気な子～自然を愛し、明るく健康で力強い身体を養う～」ことを中心に据え、保育計画を立案し保育を展開している。	
IV-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開			
(47) IV-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a b c	園全体が冷暖房完備、床暖房も備えられており、冬場でも未満児が裸足で過ごしても暖かみが感じられる環境が整っている。	
(48) IV-1-(2)-② 一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a b c	子どもの安心・安全、よろこびを意識した環境を設け、一人ひとりの発達を支援する保育を実施している。生活リズムを大事にし、情緒の安定を図る家族的な雰囲気、落ち着いた環境を提供している。「子どもが主役」「子どもの自立」を常に意識し、園の生活の中で自分が決めて身につける力を育むよう援助している。	
(49) IV-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a b c		
(50) IV-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a b c		
(51) IV-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a b c	布オムツを基本としている。子どものサインを受けとめ、気持ちに寄り添った関わりを大事にしている。保育士が仲立ちとなり、一人ひとりの思いを代弁し友だちと関わりたい気持ちが育つよう関わっている。	
(52) IV-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a b c	身の回りのことを自分でしようとするなど、自分が今持っている力を使って自分のことができるよう個別対応することで、できたことへの自信につなげている。	

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
(53) IV-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a b c	子どもが自主的、主体的に活動に取り組めるよう工夫している。異年齢交流、散歩、食育活動などを通して、一人ひとりが自分からやりたいことが出来るような環境整備に取り組んでいる。	
(54) IV-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a b c	現在、支援が必要な子どもが17名在籍している。子どもにより職員を複数配置している。外国籍の子どもは2名いる。コミュニケーションを図るため保護者の友人の協力や、必要に応じて通訳を付けている。園だよりにひらがな、ローマ字を振っている。看護師を配置し一時的な病児保育も可能な体制を取っている。	
(55) IV-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a b c	延長保育の際には、正規職員も交替で朝夕対応し保護者との連携を大事にしている。また、子どもの情報を共有するためパート職員との情報引継に努めている。	
(56) IV-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a b c	同じ地域間の保育園と協同で小学校訪問や交流を行っている。「保幼小連絡会」へ参加したり、必要時は小学校へ情報伝達を行っている。	

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
IV-1-(3) 健康管理			
(57) IV-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	(a) b c	年2回の健康診断と年1回の歯科検診を行っている。保育士、看護師と栄養士が協働して『噛む育プロジェクト』を実施継続している。取り組みの内容としては、給食の「噛み噛みメニュー」提供、食育指導、保護者講演会等実施している。 子どものかかりつけ医からの「アレルギー疾患生活管理指導表」に基づき、除去食を提供している。食事の提供には、必ず複数の職員によるチェック体制を整えている。	
(58) IV-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	(a) b c		
(59) IV-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	(a) b c		
IV-1-(4) 食事			
(60) IV-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	(a) b c	昼食を一緒に摂ったが、食事内容、姿勢、しっかり咀嚼する力強い子どもたちの姿に逞しさを感じた。園庭で栽培した野菜による自園給食、サンマの炭火焼など身体と心を育む食育に力を入れていることが理解できた。	
(61) IV-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	(a) b c		
IV-2 子育て支援			
IV-2-(1) 家庭との緊密な連携			
(62) IV-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	(a) b c	家庭訪問はせず個別懇談会を行っている。子ども達の命を守るために大事なことを考える機会として「カンガルークラブ」を行事化し一人ひとりが自分を守る力を身につけるための安全教育に努めている。	

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見	
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後、取り組むべき検討課題など
<p>IV-2-(2) 保護者等の支援</p> <p>(63) IV-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</p>	a (b) c	<p>防犯対策として、緊急通報システムを園内4か所に設置している。保護者・職員向けの一斉メール配信も行っている。3歳未満児は連絡ノートで保護者とやり取りをし、3歳以上児は玄関口にある掲示板で連絡事項や必要な情報を伝達している。</p>	<p>保護者アンケートの中に、「連絡ノートがなくなって子どもがどのように過ごしているか分からない」との意見が散見された。ノートをなくした意図や園の保育方針の説明の機会の確保、送迎時の保育士と保護者との情報交換の機会を増やす工夫等が必要だと思われる。</p>
<p>(64) IV-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	(a) b c	<p>保育士や看護師は園児との関わりの中で、細かな観察を行い早期発見に努めている。権利擁護研修も行われている。</p>	
<p>IV-3 保育の質の向上</p> <p>IV-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）</p> <p>(65) IV-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	(a) b c	<p>園の自己評価や保護者アンケートの結果を職員会議で共有し、次年度の保育実践の改善に繋げている。</p>	